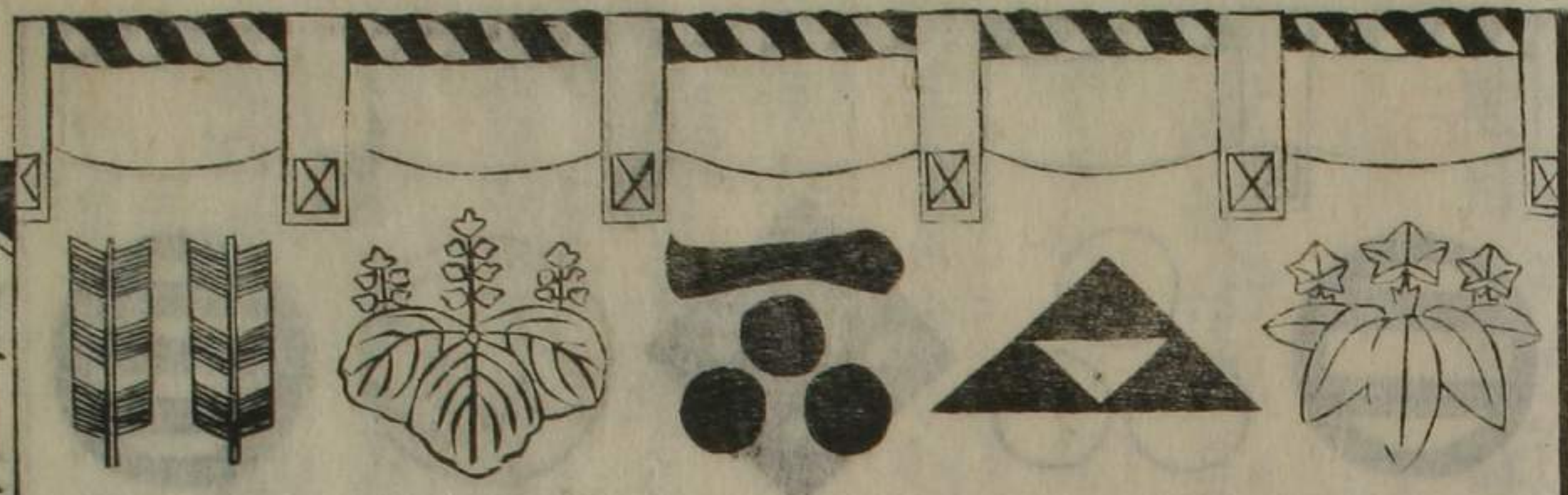


待
 遠 13
 冊 2208
 卷 2



星月夜顯晦録初編卷之二
母一ツ元ヨクンクハノクキヤニ

目次

島山重忠賢智明察を演説と
トシヒ重忠賢けんちめあろえんぞ

三浦義村が亭ふ猪老臣経綫の圖
ミウラヨシムラカテフイノイヌロシノシヤウゼノヅ

鶴岡の回廊と諸士盟約の圖
ツルカウカウケイロウシヨクノヅ

星月夜顯晦録卷之二

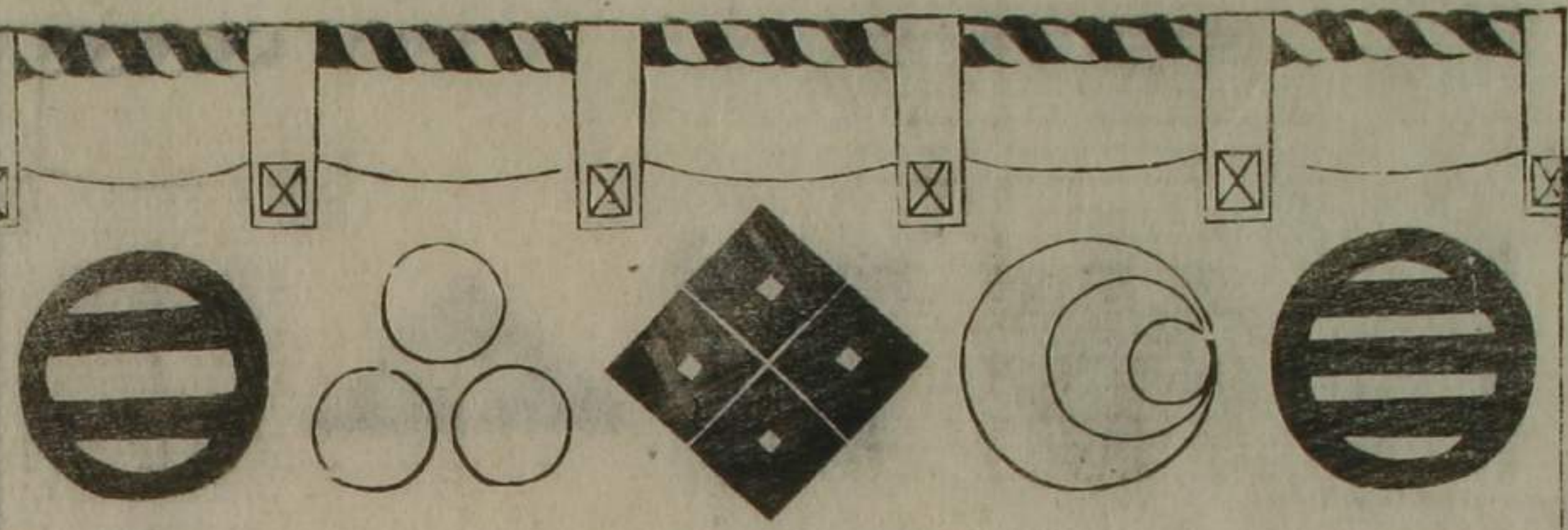
梶原景時諸士の所は依て一の宮へ蟄居せ

大江廣元羽林家へ諸士の連書披露の圖

梶原一家鎌倉を追放せしめ

番場忠太京都へ密使しんと發足の圖

景時又子孫を放逐の圖



星月夜願晦録初編卷之二

畠山重忠賢智明察を演説せ



三浦義村使を以て老臣各入京の事と申送り多事私田左門尉茂盛

佐々木左馬尉義連是左九郎盛長入道蓮西畠山次郎重忠亦茂村の

亭より余命を以て則義村結城七郎が危難梶原景時が所の事を物説

某社夫々愚案を以て凡作義以て景時が後所は命を失ひ家

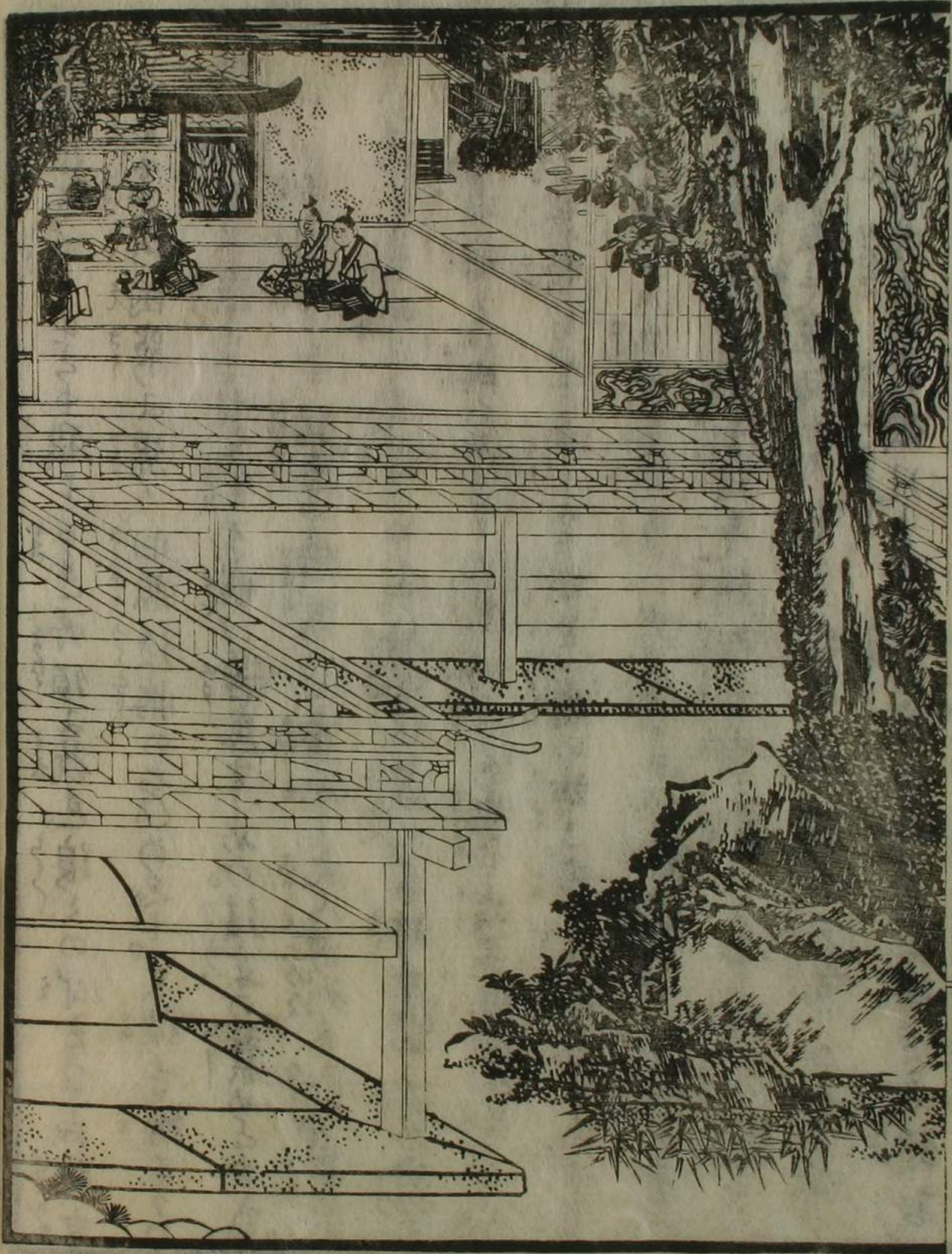
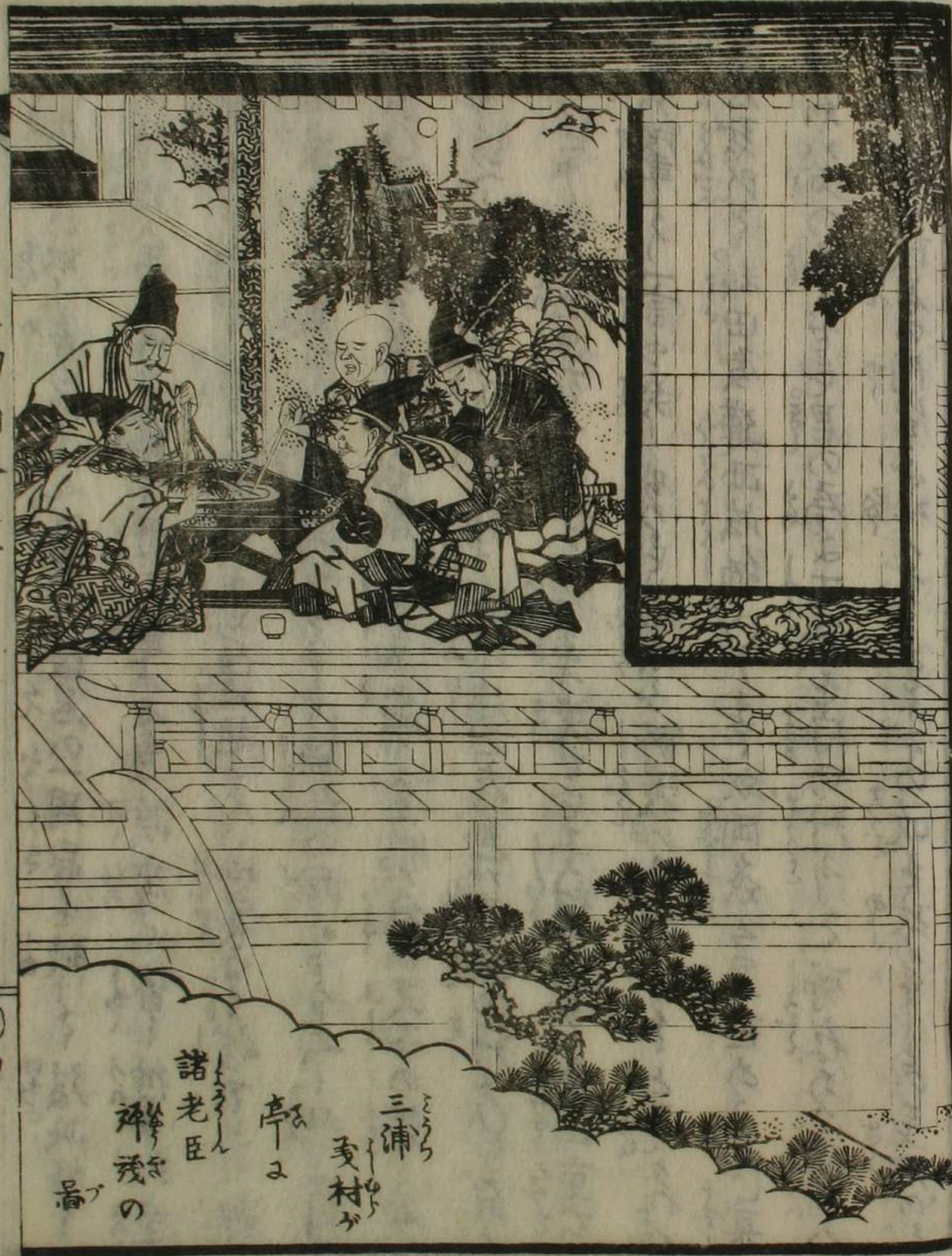
を亡しと申傍々斗へうとぞ余盛も既又彼が後所は珠せしむんとせ先

君は在世の彼が旧好を以て憐れむ依て。持威又尊君は倭意を逞

あつたるも先君薨去の後とて謹む畏るも前々境り後口を動うと

条羽林は若年より依て。彼が倭兵又何せむ以て罪多るをも珠しめん

とぞ。景時が積悪終ふ羽林の口を不飯し申す。後々君の口を彼城を



せんはる其のやちのゆりて。せそく故君の一周忌を後して。後此縁不
 及。信太入主とて。殊は彼を逐ふもの。一族度く皆彼が執連
 あり。所領を受へ。族をば。恩をば。及。抱せん。の心定る。其の親
 族縁家悉く罪せん。等。困のさる。大。強乱の場とある。彼とのひ
 ちとのひ。遠くある。は。あ。愚息。系。益。か。あ。れ。が。状。木。又。子。の。怨。り。少
 かつ。この。い。ども。私。の。怨。り。君。を。忘。る。不。忠。と。存。せ。ば。万。全。の。計。ひ。こ。る。あ。り
 かつ。と。や。あ。ど。き。も。む。ら。う。と。と。評。美。受。せ。ど。其。村。か。い。り。島。山。重。松
 重。松。改。り。和田。及。蓮。西。法師。の。や。ま。り。如。西。条。と。も。一。理。あ。り。あ。り。其
 存。る。如。の。身。の。為。よ。せ。ど。君。の。為。よ。正。路。を。守。の。計。あり。所。存。あり。蓮。西。入
 り。の。不。等。の。故。君。の。内。の。事。を。冷。ん。ず。さ。る。か。その。政。を。攻。め。す。と。よ。美。理。の。ま

之。近。く。登。見。又。故。君。薨。去。の。形。を。伺。ひ。罷。臣。謀。及。見。又。仏。忌。あり。と。て。皆
 並。ん。や。故。君。幕。下。系。時。を。重。し。ゆ。り。石。橋。山。の。旧。功。を。忘。る。者。持。せ。ぬ。
 人。を。の。信。之。持。せ。ぬ。是。の。い。は。在。世。の。間。の。ま。て。子。孫。あ。る。が。後。る。人。と。上
 系。時。恩。禄。又。は。餘。り。一。族。榮。え。と。誇。る。と。旧。功。を。報。い。ぬ。人。あ。ら。ん。と。い
 至。り。何。ぞ。彼。を。報。賞。ゆ。ん。彼。が。旧。恩。を。忘。る。故。君。免。し。重。し。ゆ。り。如。の。ま。更
 至。を。礼。さ。す。あ。り。と。彼。又。故。君。を。別。れ。る。と。す。才。を。懐。か。ず。何。ぞ。罪。せ。給。ふ
 事。を。當。時。と。至。し。と。も。倭。恩。止。む。強。士。を。強。害。見。と。巧。む。け。罪。の。故。君
 曾。く。知。り。百。は。ぬ。如。羽。林。の。は。改。り。あ。り。と。る。れ。ば。罪。科。を。正。さ。す。と。天。理
 と。ま。し。加。之。系。時。の。後。は。謀。反。を。企。図。し。仇。を。逆。賊。と。し。る。べ。き。の。あ。り。
 斯。や。某。一。人。速。く。彼。を。拒。又。似。さ。す。と。も。賊。直。を。守。り。ゆ。り。又。終。て。理
 非。を。明。し。仰。乞。底。を。述。す。月。の。系。時。頗。智。を。使。し。者。也。持。威。し。

ところとて我人を終害せし宿意を獲む輩。故君は在世の傍に
 ありて我を擧げ、我を擧げ居るも幕下薨去の後、まゝ系時不眼をばつるを
 彼我牙の初未をせし安んずるも不依る羽林又媚諂ふの武功の輩を
 或ハ獲し。又ハ遠ざり。自らと君を怨むを其虚なき大謀を成んと
 するものあり。云のせしぞ不中斗んとあふか也。是立系盛といひ積熾と
 いひ。誰彼の見別る。我も系時自ら色を起りて。切らずに我を動せ
 入全く我士の騒動を予むめ之隠謀の根えりや我を起す。於る時々
 和田家の見見はほりて連書の辨を宜也。幕下の薨逝程、余といひ當時の
 罪をたて君の初め。殊々我をいひて。彼退居する斗るは。何の傍に中人と邪
 正の白と我をいひ。昆は。寺の富士が初を感休。一同の我をいひ。殊々隠謀を
 我をいひ。格言我村我連かどうま。一時も早く我士を集連書を

潤へと騒々を我盛制し。らよ斗りえ。私の黨をるまよ似たり。我
 我苟も君の為世の為。悪人を除んとす。我忠を争う。内親は中
 階のん。明日鶴岳は令入。神明の宝前。又誓約をせ免。遠くは
 極は沙は。一。所状は誰う筆削しんとす。又村を言く。右京進仲
 業。文筆の誓言有る。あつち系時は宿意を合は。是又さるる人あつちと
 我ら。我盛仲業を招き。此の紙。終る不仲業。大にほび。其筆力又
 堪ざれば。悪を除く。大臣の所状。るんぞ。我輩。励まらんや。と昔々れ。い
 明日鶴岡の田廊。あつち。清書のあつち。と終。我終る。その夜々。名退散
 也。村又正治元巳未年十月六日。和田左馬。尉我盛。且文を以て。鶴岡
 へ會合の。正。觸。は。早速集り。隣。面。あつち。千。不。助。常。同。を。ら
 亂政。是。立。左。尉。建。元。三。浦。我。院。同。平。六。兵。清。尉。我。村。富。山。次。郎

遠くあまのついで直に退散せしむ。神の非礼を稟めりて。八幡宮の社前より右の誓盟をうりて。神も遠くの益を。あはれに辨状を繕ひてせんと右京進仲業は指揮されが高きふ続上る。系時思ふ悉く善記。平余人の法臣を彼一人よりせしむるや否と仲業文戈の筆を震て書し。理非明白とせし潔し。その中の鶏を飼ひの狸を畜ど。穀を畜り。の飢を養ふ。と云ふ句の法。殊更感むと云。叔由會集の法士を。維く否と云ふ。皆く大は。けり。ゆもあ。たきま。の。非。き。く。身。の。八。裂。よ。せ。り。ゆ。も。彼。老。賊。を。亡。く。る。が。是。も。さ。る。本。や。あ。は。じ。七。堂。伽。藍。を。建。て。ま。り。ゆ。り。彼。又。子。を。殊。見。る。廣。大。の。召。根。系。人。の。患。を。以。て。ま。り。が。子。益。の。慈。悲。を。止。め。し。ね。が。り。の。殊。戮。す。も。人。彼。が。肉。を。食。ひ。数。年。の。持。續。を。散。ら。す。良。味。

おせんめのをと祠を搦へり。あま。美。盛。大。は。此。の。所。に。群。系。の。筆。乃。姓名を死す。め。一。判。を。居。せ。は。是。より。誓。言。の。酒。盃。を。献。酬。す。村。は。岡。崎。四。郎。入。道。美。実。と。三。浦。庄。同。美。徒。四。男。あり。美。明。が。舎。せ。り。頼。朝。は。美。兵。を。揚。め。り。柳。り。右。貞。を。辱。し。石。搦。山。の。合。戦。あり。志。子。真。田。と。市。美。忠。を。討。死。せ。悲。歎。る。が。右。勅。を。勵。し。け。し。ご。由。系。村。が。め。り。功。を。押。へ。ら。し。恩。福。を。蒙。る。ま。り。は。是。を。恨。み。由。た。く。美。太。が。た。か。美。水。の。泡。と。や。り。し。是。の。悲。し。ま。と。市。が。後。世。を。吊。り。外。化。す。る。り。は。これ。が。由。系。村。が。我。す。の。美。勳。君。の。巾。為。る。り。と。明。暮。も。ひ。續。ら。し。と。お。せん。ま。り。今。年。既。に。九。十。八。歳。今。日。群。會。の。一。老。る。り。が。精。の。枝。又。憑。て。因。節。は。列。に。け。拜。慈。を。せ。り。歎。息。し。凡。乾。坤。の。間。乃。る。り。六。十。年。を。取。り。一。周。と。し。人。間。の。寿。命。又。六。十。を。定。命。と。せ。る。間。は。浮。沈。蓋。表。



鶴岳の
回廊に
諸士盟約
の圖



此ひ懸しその我いそ一周年の齡を保ちけ世を權士とさるるふ
 つらる業用あり。かく長生さるるごと。我るるは浅ましく。鉄人の益
 衰を見せよほちり。斤時も早く死後を待たず長き眼目出度
 と六何者の云初よりぞや。今も又各方の言察あり。思老古幕下伊
 東の鼓又在る初より。志を運びて兵を揚るんとて。父子一番又加
 石檜山の難戦は最息多た。討たるる。君を大りと守獲
 する。漂泊の艱難を凌ぎ。後又口運を免るる。おるふ系時の
 その初は敵あり。正しく幕府を討たる。男ある。石檜山の節
 木の鹿又武備。忍び在る。れを系時が斗ふ。今味せむ
 又危急の場を道且も。君を死志且も。降系の時時を隨
 一の將と教ひの。人バ彼さる。その切又慢。我をさる。氣由用か。

虎の威をぬふふとの。武備の天の命。大おとす。危
 難を免れぬ。佛は仏神の擁護。よる。人力を及ぶ。梶原
 見道一なるも。高運のる。古系の時時。抽て
 新系の系時を重し。平氏追討のおう。一方の侍大おと。令せ
 ら且しと。彼が威を。夫より。教年の間。彼又。令せ
 者。我の中。我も又。彼が舌刀より。息多忠の跡。さる。令せ
 どの。定業と。明め。う。今月を送る。如満る。令せ
 時が。威止近た。め。彼を。退治の。評定。列る。令せ
 る。初ハ。敵味方と。別。弓。箭。刀。槍。を。交へ。又。朋。卓。と。令せ
 君。辺。又。袖。を。け。後。彼。が。為。君。臣。の中。之。隔。生。甲。斐。と。令せ
 世。を送る。人。怨。人。滅。却。を。斗。人。殺。加。蓋。衰。を。可。笑。と。令せ

家入道一々。明日をも都へぬ老の身は。邪佞を退け。元人の患を除ん
と未だ人の土産此上や。あつた年ふれども。美まらぬその。仕者も員
をたうのと。往りの長くと。猪くおく。斗野沢。効めたる。あぞ。群會
法士一同。美実入道。か。底を案。感涙を信。つ。保。系。時。か。旧
悪を。あ。連判。後。各。退。散。す。り。たり。

梶原景時法士の訴に依り一宮へ發居を

斯く和田左馬尉。尉。美盛。三浦。平。六。兵。衛。尉。美。村。西。人。件。の。訴。状。を
携へ。大江。因。幡。守。廣。元。朝。臣。の。亭。に。懸。ね。對。面。の。上。美。盛。訴。状。を。相
渡し。在。後。會。の。法。臣。一。統。の。訴。ある。貴。辺。羽。林。の。山。前。へ。披。露。の。つ。て。詔
意。何。ひ。も。あ。り。と。あ。ぞ。廣。元。何。の。訴。状。と。披。露。え。と。あ。ぞ。系。時
を。あ。り。と。あ。ぞ。美。盛。何。の。老。臣。残。ら。む。法。士。の。連。判。六。十。余。人。の。訴

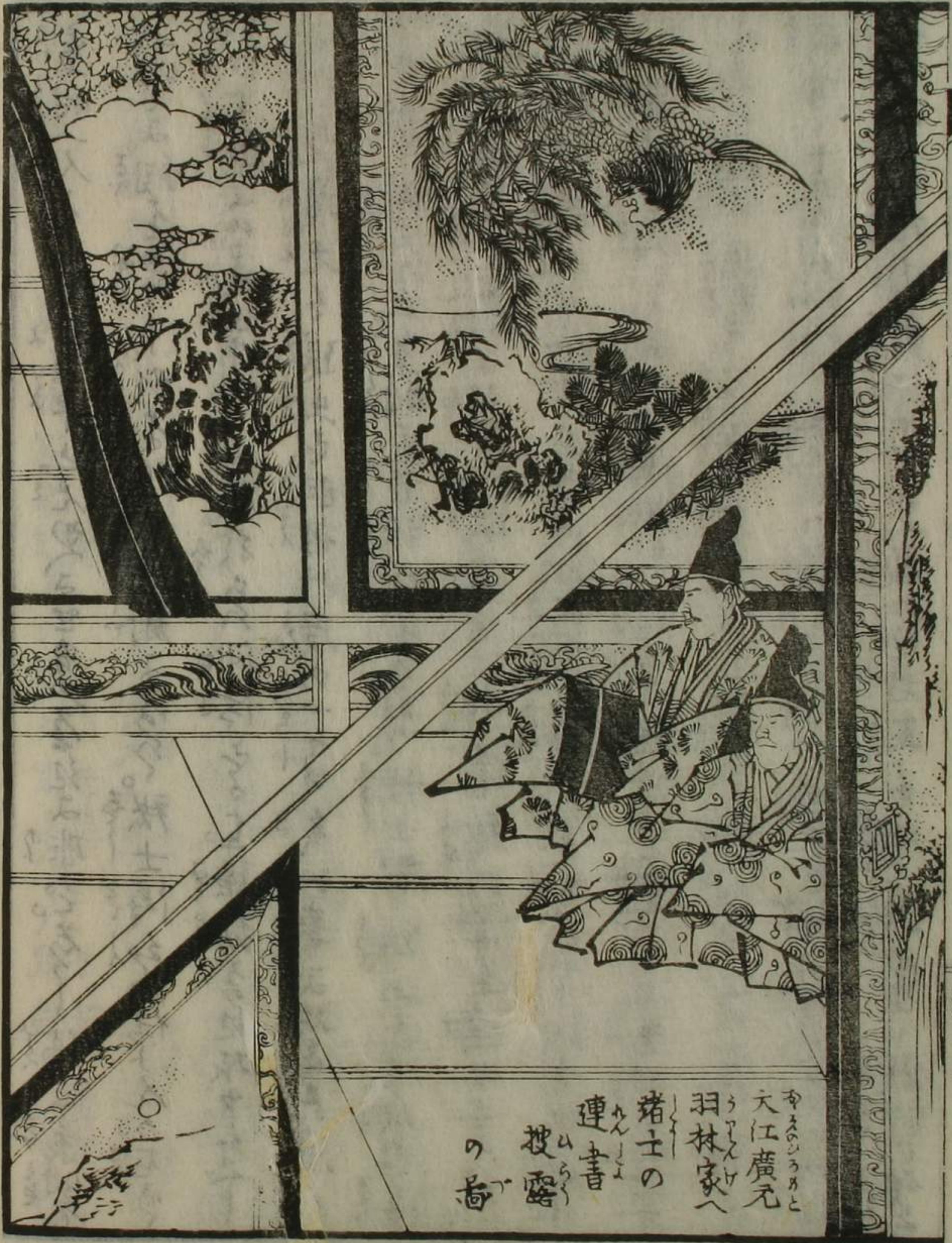
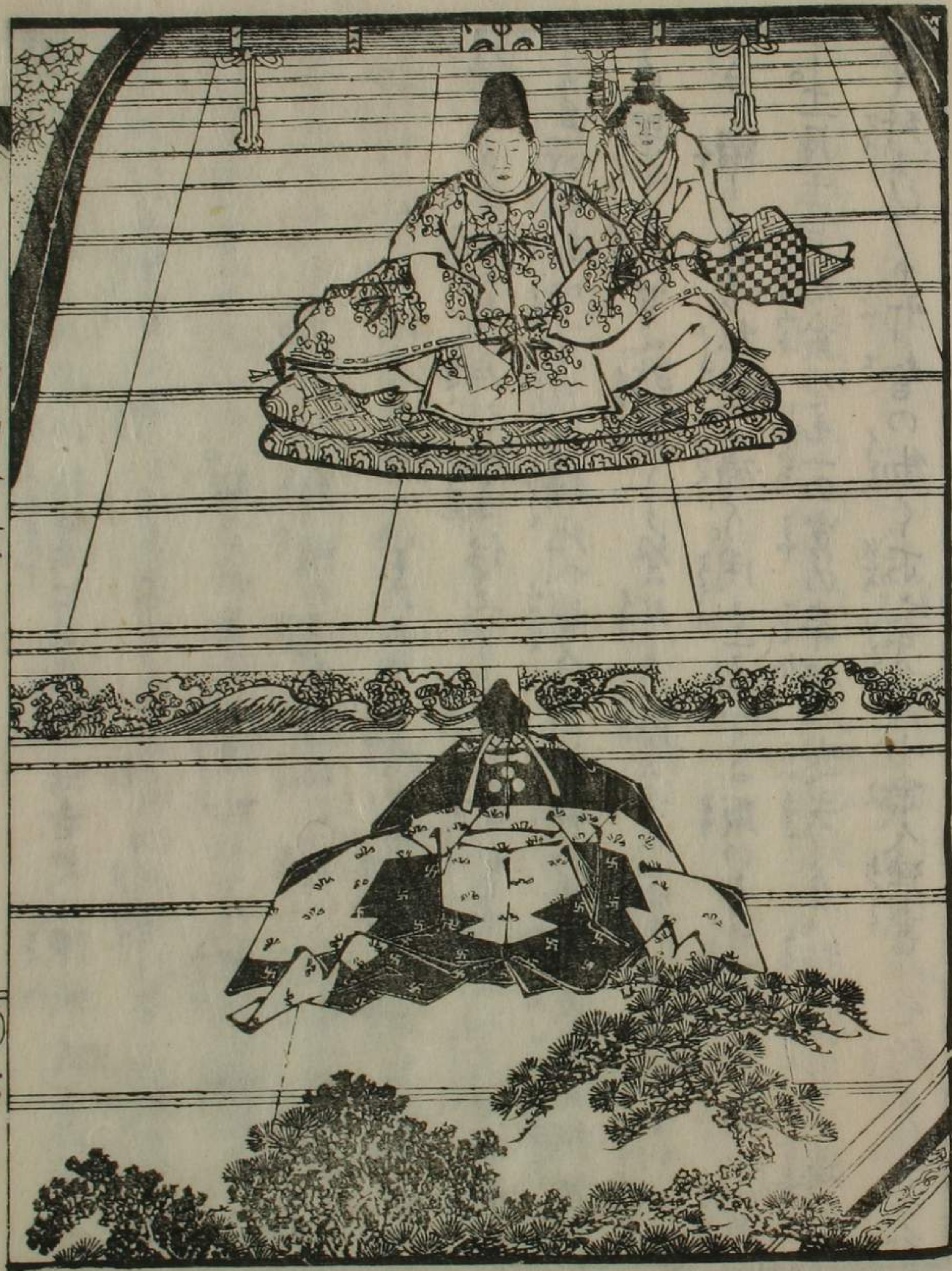
る。ん。は。大。又。發。給。を。い。つ。る。の。山。斗。ひ。や。系。時。を。憎。む。あ。と。理。た。古。君
薨。去。行。む。羽。林。の。山。代。に。あ。り。あ。の。斗。ひ。發。動。を。好。む。と。似。う。君。の。あ
年。の。あ。り。を。釋。の。辨。と。せ。え。の。老。臣。の。耻。辱。す。と。今。一。悉。也。あ。り。あ。と。あ
た。れ。が。美。盛。笑。と。貴。容。の。武。道。文。學。美。備。の。良。臣。之。此。訴。状。の。を。案。し。の
の。宜。く。姓。名。を。も。加。へ。る。の。筋。も。あ。り。尋。常。の。訴。と。あ。ひ。あ。り。で。往。探。返
し。披。露。の。あ。り。た。美。の。為。法。士。の。肺。腑。を。碎。れ。訴。状。あり。老。臣。の。九。十。八。家
を。改。と。し。七。壯。士。二十。果。以上。都。々。六。十六。人。同。志。連。判。し。及。ぶ。が。次。以。て。推。量
多。連。名。の。單。に。と。ぶ。乱。れ。の。あ。り。た。大。夫。夫。君。の。為。世。の。た。免。又。法。士。の。訴。状
を。正。の。制。詞。を。費。し。の。あ。り。た。披。露。の。あ。り。た。直。訴。と。し。と。あ。ひ。い。は。や。あ。ぞ
日。比。法。士。の。司。の。あ。り。た。猪。動。を。靜。む。別。當。職。の。美。盛。訴。の。抹。殺。と。あ。り。た。斗。ひ
知。廣。元。由。左。右。は。法。の。む。の。あ。り。た。居。へ。は。出。え。と。あ。り。た。美。盛。訴。の。あ。り。た。

貴客申の勞を加へる且との山ひたるぬ振頼並西人とも又なり。
 乃ち廣元は之を訴状を披見し。素時が所為雅うを悪むるを
 執士の所誤のゆゑをいふ。さればけを訴へ。梶原が一族本國賊の
 べら。一先和平をうらむ。先靜の素時が格威を削ぐ。發劾
 ず。志し茂盛ホ切つた企て。容易に承知せしむ。と独中を苦め
 必案又周章。皆くその信を深く秘し居る。連名の軍
 へ振子のつと。茂盛握齒を切つ。沙汰今中と相待は是れ。五六日何
 の振子もなし。是れ又依り仕士ホ茂盛又信使と茂盛由ら。十一月
 十日熊く廣元の亭に至り。此の所定と披露し。ひの君の元氣
 けり。中と和らふ。乃ち廣元陳ぶ。未披露す。未披露す。未披露す。
 茂盛ち怒り。貴所ハ關東の耳自る。然るも素時一人の持

思は然人の訴を閣る。憲法又叶ふ。六十余人刃冷不習く。
 君の仇とる。賊を退えと欲る上。左右又依り。素時を搦んと。日と
 ぬ。相持ぬ。未披露す。是下又相合さる。斗ふ。是れら。
 又廣元赤面。入り至く。素時を悪む。非と訴の執理。叶ひぬ。
 披露の後。發劾する。損亡の族生れん。傷を必し。是合居る。
 ら。茂盛孫。の訴状をひく。人ひ。彼を殊とす。
 大鷄を殺さる。由安んぬ。私を必く戮せ。左斗の倭悪征。
 由の。堪兼と殊せ。と解判。羽村の。ぬ。
 君の。斗。彼を。國政の直。感。且宿。
 を。餘。の族。を。怒。者。
 忽ち。胸を。勅。を。卒の。面。

極を存すの辨を、先承いしや。披家、しんかき、有る紙、美くんと
 諸家、せんが、廣えい、ち、あ、披家、と、と、あ、紙、美、重、く、今日、披家、あ、の、
 や。明日、あ、を、根、を、お、け、お、人、廣、え、今日、羽、林、の、方、は、鞠、の、代、
 り。明日、披家、と、と、け、合、ふ、此、上、の、お、送、を、ま、と。美、盛、由、主、ゆ、り
 り。廣、え、り、ち、あ、案、又、結、り、の、件、の、辨、状、を、指、上、と、羽、林、の、所、
 在、出、る、君、の、結、球、七、席、切、先、密、縛、を、合、さ、う。素、時、言、よ、う、て、
 所、所、可、る、あ、せ、力、士、を、隠、し、捕、ん、と、思、い、合、さ、す、と、も、用、を、綱、の、延、り、
 あ、ひ、か、明日、の、あ、と、支、度、使、り、る、と、廣、え、然、士、の、辨、状、を、出、し、
 所、入、る、と、羽、林、甚、だ、愕、然、ゆ、い、素、時、先、君、の、家、臣、も、れ、根、は、罪、
 を、加、が、た、九、人、の、辨、頗、理、不、尽、と、宣、ふ、を、廣、え、い、く。辨、状、の、面、を、
 理、る、れ、あ、ゆ、い、と、殊、又、大、勢、也、と、の、辨、取、上、る、ん、強、動、を、出、さ、せ、

素、時、一、人、と、六、十、余、輩、と、見、也、と、言、ふ、を、記、し、非、む、あ、う、一、條、は、素、時、を、
 け、ん、と、辨、を、申、す。以、を、低、く、陳、謝、し、ら、る、ん、然、士、海、の、由、は、ん、う、を、あ、
 へ、ら、る、と、い、え、と、上、ら、る、也、於、ら、の、法、を、と、強、動、る、れ、根、中、に、
 と、作、る、廣、え、を、退、出、す。羽、林、此、度、の、一、る、氣、の、毒、又、あ、る、は、廣、え、
 が、や、ち、く、斗、の、ん、と、素、時、を、百、辨、状、を、あ、り、然、士、の、辨、あ、是、也、功、の、は、
 罪、と、は、非、む、我、は、於、く、味、ま、る、い、於、ち、由、辨、の、言、を、達、せ、ん、ん、
 六、十、六、人、退、去、せ、ん、と、い、ふ、れ、が、大、勢、也、女、一、人、を、勢、也、う、れ、を、於、ち、
 汝、折、言、紙、を、ひ、く、九、人、は、陳、謝、せ、り、和、平、調、べ、と、宣、ひ、ら、る、素、時、由、連、書、
 を、ん、ん、中、且、怒、り、且、驚、れ、思、い、し、ん、も、あ、る、覺、悟、せ、り、あ、る、れ、が、強、く、
 及、ぶ、く、上、ら、る、内、の、面、く、私、の、宿、意、を、ひ、く、黨、を、結、び、理、不、尽、の、辨、状、
 を、ら、る、と、幕、府、薨、逝、の、り、君、の、若、年、を、侮、り、恐、ゆ、う、我、修、の、根、也、



大江廣元
 羽林家へ
 諸士の
 連書
 披露
 の旨

頗亂の基ありて此所某一の由覚悟仕むべし陳謝する由も
 あり。されども吾等の所を去る者方よし。ハ乃ち取用ひるべし我々も
 勤乱を去らん由計ぐる。私一人の事より發乱とる。強人の頼ひとる
 是との忠勅由空しくせん。静繼の為を存曲く皆く強愈を退る一の宮
 の所領又蟄居はる。さうくは。その上あり。強臣又親練を示む。我々の
 徒黨をお止む。再び及来はる。と。中邪智を思ひ。古刀を研ぐ
 中々且。羽林軍。百は。領地へ退ん。六神妙の十糸。不時の禍を免
 ち。早く出ま。跡あり。は。斗ひ。ひる。ま。え。と。宣ひ。多。ゆ。糸。時。あり
 ぐ。く。緞。一。ま。り。私。宅。又。帰。り。用。意。を。と。る。取。り。を。死。一。族。即。從。を。具
 一。十月十三日強愈を出一の宮の幸領へ退去。一々。折。梶。原。が。連。一
 一。封。ひ。し。も。邪。智。の。働。く。亦。之。才。一。六。十。余。人。連。書。一。と。近。る。如。一。と。

總又徹と。且。強愈。又。在。る。を。以。て。外。底。氣。味。を。一。の。宮。の。領。地。へ
 牙。を。巡。表。の。強。士。の。持。胸。を。散。せ。ん。が。為。で。實。の。罪。又。ね。く。籠。居。の
 群。より。て。り。且。先。君。以。來。の。厚。恩。を。思。ひ。牙。を。持。て。去。る。を。全。か
 ざるの誠を。ゆ。ゆ。し。羽。林。の。中。を。動。一。内。に。あ。り。甚。急。な。れ。ば。強。愈。の
 大。志。密。謀。を。行。ん。半。を。免。奉。領。又。退。居。る。嚮。又。強。愈。一。と。一。味。の
 軍。へ。も。る。の。う。り。紙。若。京。都。西。國。へ。も。通。路。る。は。術。斗。を。遊。び。り。
 強愈。又。在。り。一。旦。と。便。由。徒。不。日。又。強。愈。を。揚。ん。不。同。る。れ。ど。由。往
 互。の。間。ハ。サ。り。を。封。ひ。ん。為。邪。智。を。思。ひ。一。族。を。ぐ。く。連。退。去。る
 と。以。て。中。三。男。三。郎。兵。衛。尉。系。茂。一。人。強。愈。又。殘。一。並。是。の。一。族。強。た
 我。城。の。覺。悟。る。が。強。人。の。疑。ひ。あ。り。人。為。且。強。愈。の。孫。子。を。い。く
 あり。告。知。と。さ。旨。中。身。並。一。封。半。の。沙。は。あ。ら。防。戡。の。術。斗。に

するんと八方よを配り之滋余の祈仕をなす一面く。此左右のふ
 と待如。系時親子役敷一の宮よ下向せと。安住しむ如。羽林家度
 元をわく。仰出さす。ハ。諸士の祈むる。系時一人ハ何ぞ諸臣を見替
 るん。先君比代畏祀経る。小菟臣を來紋あん。と。是乃
 照。生。降。り。ぬ。系時中深く。諸士の祈を。思。ひ。ぬ。又。職を。辞。し。
 願。地。へ。發。居。せ。り。彼。重。く。せ。礼。由。あ。ぶ。く。ハ。諸士。皆。く。憤。り。を。止。く。
 系時。が。所。行。を。伺。ふ。べ。し。以上。非。義。あ。ぶ。早。速。罪。科。を。所。せ。く。べ。し。
 先。強。動。る。く。慎。ん。ぬ。高。令。之。祈。紅。の。面。く。背。胸。ひ。ま。散。せ。ど。
 又。彈。ぎ。る。え。と。六。十。余。人。和。田。分。亭。又。系。令。一。各。不。存。を。述。る。中
 少。也。仕。士。亦。々。一。宮。又。疏。向。く。討。取。り。と。中。代。美。盛。制。し。必。罕。や。る
 ぶ。つ。と。ハ。羽。林。の。令。あ。く。系。時。退。去。の。由。を。示。し。ぬ。上。の。面。く。の。祈。立

ざる。あ。の。下。を。殊。又。元。來。彼。を。殊。せん。祈。へ。な。す。役。を。辞。し。退。去。せ。ん。が
 君。の。怒。を。除。し。理。あり。私。の。計。し。し。を。以。て。理。不。足。又。彼。を。殊。せ。か。黨。と。殖
 び。羽。林。家。を。將。ん。ぶ。る。又。似。く。う。ま。び。く。君。令。又。後。ハ。今。年。ハ。余。日。由。又
 ち。こ。る。れ。ハ。春。を。訪。先。君。の。一。周。忌。を。後。し。く。後。斗。畧。あ。ぶ。紅。之。と。や。け。る
 小。三。浦。美。村。し。く。系。時。奉。領。へ。下。向。と。ん。ど。も。三。男。系。茂。を。滋。余。又。止。る
 こと。ゆ。が。ず。案。ぶ。ふ。彼。一。人。た。美。を。失。せ。ど。又。兄。又。引。別。也。独。止。志。神
 妙。之。と。思。へ。却。て。羽。林。又。論。し。ハ。父。の。終。口。を。受。継。後。く。再。び。威。を。あ。ん
 と。巧。し。め。の。ろ。し。ん。系。茂。君。又。昵。近。と。れ。ハ。柳。由。油。取。り。ぬ。握。原。を
 名。を。あ。め。の。一。人。あ。く。も。笑。と。ま。先。さ。き。と。く。ん。ぬ。その。上。系。時。退。去。す。る
 の。ま。あ。く。我。く。背。憤。を。体。め。く。そ。く。渠。亦。又。子。を。殊。と。る。亦。領。を。百
 上。追。放。せ。ん。く。け。二。つ。の。内。再。發。致。ふ。べ。し。中。代。畠。山。重。右。が。云。是。ハ

先達とヤゴ。彼、隠謀のふか也。今度、謀人の誘、依る既、又、術を行、んとする、め、之、系、茂、孫、倉、止、る、と、斗、畧、熟、する、間、人、先、攻、安、せん、と、考、え、然、士、の、評、定、形、勢、を、伺、ひ、外、と、考、え、也。され、て、龍、楓、を、た、よ、猥、の、誘、せん、の、廉、忽、と、考、へ、也。系、時、筆、居、と、稱、し、一、味、同、心、の、心、算、を、信、使、と、考、へ、也。殊、又、系、時、の、京、都、の、案、内、者、あり、公、家、又、交、り、一、族、も、誘、さ、る、ら、ば、洛、あり、牒、し、合、せ、る、週、の、後、上、條、を、遂、大、茂、の、斗、畧、を、る、と、考、へ、企、む、る、べ、ら、ん。誠、又、大、子、の、氣、が、と、と、去、べ、ら、ん。情、系、初、の、評、を、伺、ひ、又、法、皇、の、歡、喜、も、由、孫、倉、之、救、追、補、使、を、免、され、候、今、又、奉、上、す、は、必、ず、子、を、誘、ら、ん、が、は、れ、也。武、士、の、勅、も、由、り、地、禍、と、考、へ、る、ら、ん。系、時、必、定、を、と、考、へ、大、謀、を、企、む、る、べ、し、を、防、ん、だ、京、都、北、國、東、國、の、若、あ、く、若、茂、鉄、石、の、者、密、を、を、示、し、系、時、が、肉、の、使、節、を、味、さ、せ、

何、方、か、を、捕、ら、ん、龍、楓、を、取、出、さ、早、く、連、書、を、以、て、その、罪、を、誘、ん、夫、中、の、孫、倉、あり、一、向、羽、林、の、高、令、也、但、せ、何、由、沙、法、も、打、と、佐、と、考、へ、又、子、司、常、高、亦、内、意、を、示、し、江、及、の、領、を、海、道、を、改、め、さ、せ、余、江、を、京、中、の、換、子、を、伺、り、え、と、考、へ、要、は、し、ん、今、廉、忽、の、勇、も、考、へ、我、を、働、ら、ん、若、茂、却、り、不、思、と、考、へ、騷、動、の、考、へ、と、考、へ、れ、ば、義、盤、大、又、惑、し、重、若、茂、の、妙、論、誠、忠、の、令、言、あり、此、上、何、の、評、定、も、考、へ、ん、下、各、此、儀、兼、伏、お、ま、さ、す、も、は、士、亦、納、侍、し、退、散、せ、し、今日、重、忠、の、長、見、む、賢、見、え、ら、ん、當、時、法、皇、後、宮、兩、院、の、歡、喜、大、小、の、改、り、面、は、禁、中、の、斗、と、い、う、ん、王、氏、必、存、と、い、た、四、海、の、武、士、孫、倉、の、下、知、を、考、へ、孫、倉、家、も、由、非、義、の、斗、と、い、ひ、る、ら、ん、が、空、し、く、考、へ、せ、り、め、之、後、又、其、志、止、ま、ら、ん、後、武、家、を、傾、ん、と、考、へ、大、乱、と、考、へ、來、る、系、時、由、い、ふ、は、武、家、ら、又、發、せ、

るべしとるのれを羽林家ありさるるに付ど。系時退去せし。然士の公
由晴へ。近く和平せんとあし。系時が残居を仰せ。外口
に。双前のとく。に側より。酒宴の相手と。し。系時又又。方ぬ
勇智の者あり。牙を。羽林家。又又。振ひ。疑ひ
百仕と。連書。加。系時。入。憎。怒。
是を。誅せんと。企内。群。系時。北条。又子と
に。斗。し。時。系時。佞。右
論。六十。人。又。限。門。系時。臣。未
と。然士。其。懐。を。散。日。終。又。動。乱。を。出
と。益。は。意。を。却。し。彼。今。領。池。退
け。も。我。後。の。不。為。也。然士の。勝。増

上ハ君を怨むなるべし。静濫を。然士の。系時を。一
見。改。一族。悉く。追放。と。練。羽林
今ハ。夫。難。は。難。也。由。能。入。も。た。れ。然。入。は
る。と。然。大。勢。の。然。臣。の。入。と。し。羽
官。使。者。系。時。を。追。放。せ。し。
梶原一家。然。余。を。追。放。せ。し。
梶原系時。等。番。場。忠。を。密。使。と。し。上。京。せ。免。仙。個。中。上。多
ハ。羽。林。頼。家。の。子。持。官。一。つ。を。然。余。頗。強。動。仕。は。四。海。の。政。事
を。教。り。在。る。の。由。を。上。京。告。げ。免。仙。個。中。上。多
ハ。家。を。廢。去。す。熱。追。捕。使。の。職。を。あ。り。禁。中。中。上。多
元。の。と。く。公。の。作。沙。法。と。す。然。士。然。余。家。人。の。号。を。止。未。悉。朝。家。の。臣

梶原系時



番場忠太
京都へ密使
発足
の音

禁廷守護の武將を故右幕下の川一族を以ておとす作ぎ
 某亦勅令は後々々々成お身々々京都の繁榮此上由なくち平の基
 おゆりんと相違しむ其外甲斐信濃越後上野の川門禁諸士の中は味
 方とてさ軍へ悉く密書を矯り京師の振子吹舟上落せんと謀反の
 半後領する所強愈々りの川内使系等々一軍々々々々々々々々々々
 のる運の極る故也や日來邪智深記系付今日何の由ははるを
 扱々新し軍を川家おのり台々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 終ははけ如くあふん下り強愈々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 便置次舟々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 十二月廿七日再び強愈々の宿所々々々々々々々々々々々々々々々々々
 蓋を百是先達々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

忍ぶは堪ふれば早速罪科のふりささか故君の川好身を以て見入然士
 の新種妙々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 故所領とてく没収さす一諸士の別當さればその方々々々々々々々
 さす一と直々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 を催し五百余人を以て具し三浦平六兵衛尉美村を伴ひ菅原父子
 か宿所々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 かくと礼美を失せさすやるあを系付系々々々々々々々々々々々々々々
 さすやるやる同様さす一美蓋が平前殊々新状の既元ありしや景
 時由面目を失ひしが謀針さす一並はさるるもあはれは是非來就るはめん
 との不第あり愁々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 蓋を辭退去の且とすべしが士亦怨恨を會居るは途中の狼籍

量がう。某が人数を多く警固せしめん。是時、早く退き、中景
 時、是を思ひ、知、取、り、の、由、り、あ、ら、む、也。周章狼吠、出、出、在、後、會、の、法
 士、の、よ、び、又、農、民、商、家、又、至、近、け、年、月、恨、を、會、一、貴、賤、跡、次、又、出、逢、ひ
 奈、時、自、量、又、追、放、せ、ら、る、あ、り、と、あ、ら、む、也。其、拘、を、世、段、ん、の、と、街、を、争、ひ
 群、衆、一、れ、が、梶、原、又、子、の、よ、く、也、是、警、覺、也、又、其、益、美、村、五、百、余、人、を
 引、く、跡、次、を、開、く、也、柳、由、狼、藉、め、ら、曲、り、し、と、も、と、下、約、を、つ、く、也。
 よ、く、通、う、い、今、年、十、月、廿、八、日、後、會、を、追、放、せ、ら、る、面、く、梶、原、平、三、系
 時、嫡、子、源、右、左、尉、系、季、次、男、平、次、左、尉、系、守、三、男、三、郎、兵、衛、尉
 系、茂、六、郎、系、國、七、郎、系、宗、八、郎、系、則、九、郎、系、連、系、時、か、舎、才
 刑、部、丞、朝、系、同、嫡、男、右、兵、衛、尉、系、貞、次、男、次、郎、系、衡、三、男、三、郎
 系、益、七、郎、系、氏、之、外、家、の、子、郎、亦、都、々、或、百、余、人、追、掛、り、く、也。

見物の達人、先、光、と、と、勇、と、悦、び、笑、ら、ぬ、若、く、も、り、ける、も、益、美、村
 渠、水、を、階、く、送、ら、る、也、早、と、す、ま、系、時、又、子、か、宿、所、を、破、却、し、此、段、ナ
 上、る、行、は、強、士、手、奴、亦、く、悦、び、む、け、後、で、實、の、罪、は、折、且、ん、を、ま、ひ、は、と、
 疫、病、神、を、掛、ひ、一、也、い、皆、系、世、以、喝、へ、家、に、悦、び、の、酒、宴、を、は、舞、乐
 め、り、扱、由、系、時、々、急、又、上、洛、せん、也、彼、表、の、振、子、を、え、る、也、番、場、か、る、を
 ま、ら、と、再、び、一、の、宮、の、館、へ、り、る、也、領、分、の、民、百、姓、今、の、悔、を、怪
 ん、ト、一、人、も、下、知、を、字、ら、め、り、る、也、系、時、を、念、ひ、也、た、後、主、と、り、哭、の、其、全
 心、と、悔、く、あ、ら、る、也、源、右、左、尉、系、季、次、の、前、又、其、決、を、流、し、け、る、也、
 我、く、一、家、後、會、を、追、出、せ、れ、跡、次、の、穢、は、耻、辱、守、を、蒙、り、一、也、皆、某、か、強
 ら、る、也、又、非、美、め、り、也、平、練、子、め、り、付、也、家、圃、を、入、主、と、り、也、我、く、兄、弟、九、人
 二、人、の、既、は、早、世、一、七、人、引、く、在、ら、る、也、陳、言、を、由、也、也、又、子、亦、は、結、由、掛、ひ

一悪人といはれりて辱しき。源家の恩を蒙り。内は列るて父也。
 先祖ハ桓武天皇の後胤坂東八平氏と号す。家も又名幕
 府は仕へ異るる功をたせり。あふかや。一族親友餘妻の亦頌を
 賜り。権威府を並る者なれど。自ら罪受の振喝をたあ。高木
 風を折るや。出位の考も。人の嫉妬を誘ふ。前々鉄人の裁度
 を折罪よ。ゆもひ。と。あやぶる也。その報忽ら来る。やる身の上と
 する。今更中て詮る。子とて。父の罪をや。似これども。讎悔は罪障
 も滅らる。と。あられ。速に出家を遂ら。先亡の軍が。苦抱を吊ひ
 たる。怨恨忽ち消失。乃の終末。百業を保り。のり。少少の老
 令。し。行るゆゆん。此上の未來の罪を。思はる。一。族榮は。暮。一。方。も
 頂上。又至。一。亦。有ん。九龍海あり。今。切。零。後。と。け。微。運。を。以て

竹を凋落。能成。休下。人懸。や。血の斗畧を。乃。并。その。功。の。一。方。の。と。も。
 逆心。の名。成。乃。威。亡。下。あ。ん。乃。鉄。一。は。且。と。言。以。そ。一。凍。ろ。も。系。時。不。興
 の。辨。あ。り。物。を。も。言。い。く。在。か。良。あ。り。て。汝。又。か。要。を。知。ん。や。武。士。ハ
 勇。を。才。一。と。と。或。ハ。家。督。を。子。は。讓。り。勅。め。を。仰。せ。ん。が。入。道。と。る。も。人。々
 その。名。を。り。す。我。今。鉄。士。の。為。又。零。落。一。出。家。せ。ば。鉄。一。令。ハ。惜。り。の
 又。と。笑。ま。ん。と。耻。の上。の。辱。之。亦。頌。は。も。る。ん。今。又。至。く。擧。抜。の。拳。動。せ。ん。ハ。
 大丈夫の。如。き。あ。ら。び。逆。心。も。悪。人。と。も。殘。ハ。殘。也。武。道。の。勇。氣。ハ。失。ハ。ト。
 一旦。心。ひ。ひ。さ。る。工。家。に。さ。る。ひ。つ。せ。ん。ゆ。づ。中。道。も。空。一。一。廢。ん。時。は。臨。む
 屈。せ。ば。士。心。成。ま。る。乃。勇。士。の。職。も。失。り。汝。又。武。道。を。捨。て。ん。と。さ。る。不
 孝。言。稱。又。終。り。再。び。發。言。さ。る。と。さ。る。れ。我。を。去。ん。と。さ。る。か。仁。せ。早。く。と
 去。去。せ。一。不。孝。不。孝。の。弊。ハ。と。怒。罵。り。さ。る。あ。と。系。季。ゆ。な。ぬ。く。ハ

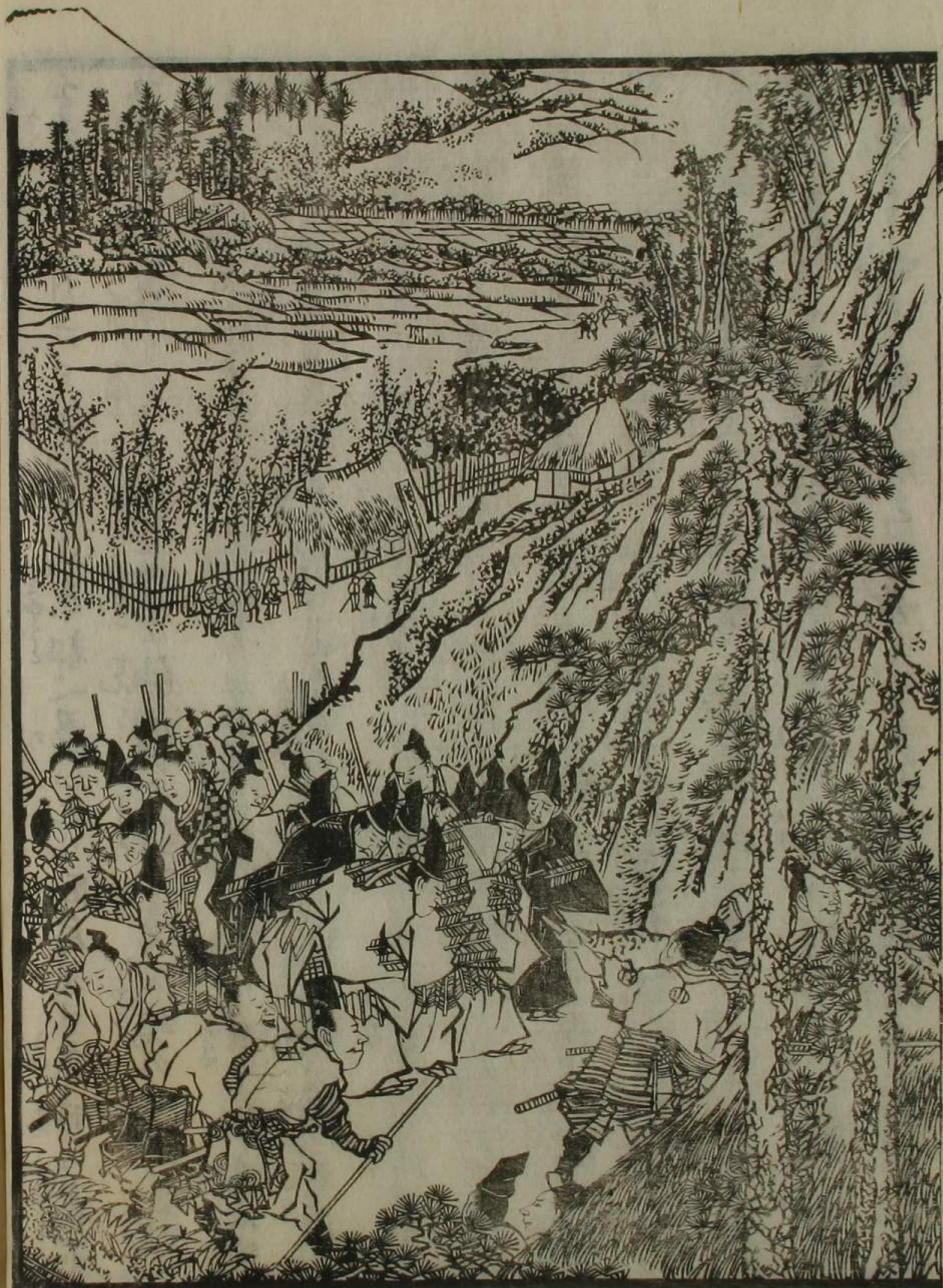
をこれ言ひし。練を巾用ひるるはとく。父を捨刃を遁る某いふらむ。此上々の屋よりゆきくも。父子兄弟一死存亡を究る外ありとや。然レ。系時卿暁を止文平の用をさるるの外代りたりし。然る系時が領分の百姓日身怒を居ると云ふ今こそ報んと申合せ。系時が居る押あるるぞ。風吹さるも。系時おぢが終に油ひらむと兵具を構へ族を磨刃防戦の用をさるるの如し。後念入等。系時父子謀反を止一の宮へ城郭をすまへ合戦の支度をもと。且く沙汰等。血氣のなる原地向く殊戮せんとも勇ま進んぞ。封牛原の如くも。傍木七郎則宗との系時は一味し。謀の爲は後念入在て羽林家は眠近しと云ふがけり。羽林は追従し。系時が死に抗ふ。封牛の油はさるるし。又系時が宗待と頼む番場忠を。密用

十二月六日お列を主。系都へ登び上り。同月廿日系時が宿。五糸坊門の亭より。翌日密に仙洞の山野へ入り。入魂の公卿は替て主人系時中上。教を主を委問せり。太上天皇も。暫く逗留しと云ふ。作出されたる。坊門の宿所あり。左右を待ら。その年暮る。正治二庚申年の春。尋常の上。祓禊し。此度と隠し。上京せ。外由り。菅く在り。京都在初の守護人。内。守惟茂が郎亦。主人は。惟茂相士の。尉定綱は。定綱は。去十一月領。後念入。符令。捕捕拷問。



里月夜力編卷之二

十四



里月夜力編卷之二

十五

惟美のいづくを扱子あてまらむ。礼問中なるも志々々仙洞の所へ往來
 せむらひするれ。理不号は攝んも。院のい美久のあへん先付とらむ。使者を
 双々上京の衣を穿ぬる。陳謝せん。その返答は依て結と系。盡力士を
 双々被がゆる。如を伺のせ。京赴を離れ途中より捕へ吟味せ。仙洞へ
 来りしその令せむらひ返答とらむ。その由めんとす。中へ佐未定。細
 末も即時。使者を以て。五糸防門の程原が屋敷へ寄る。使者を
 場は對面して。云幕府に在世は定めぬ。如を強余り。上洛の軍に
 行用は限らむ。先在京の守護へ届。而して運苗あて。さ若くは。先
 遣くる上京する。一應の好む。滞苗せむ。赤不審之子細具は兼ん
 どの志々々。と愕然しが。元来主人は考らぬ。智兵の老也。少も覺れ
 使者は向ひゆむ。ゆゑのいも扱子あて。主人名代とらむ。上洛はゆ

か世間を怪り。秘密は仕の如。作是は預り。頗思入とゆ。赤不審の上の色は
 力り。某系上を遂中。訊はんと答る。使者の云は。直は六波羅へ
 同道のらんや否。番場はく。あひたる。行んとゆ。却て疑ふ。定
 て仙洞へ来り。と述知の尋らんと。持が直と。疑を中。聞くと。必惟し。
 赤不審は供仕はんと。使臣と打連。六波羅へ至り。バ惟美定綱面終し。何
 氣多し。上洛の子細を尋らむ。某系は上洛は且。名授へ。成り。おえ
 まさる。扱と存せ。が。おれ。上白地。中上は。ん。旧冬主人系時。在法會
 の。臣より。祈。まら。君より。大令。中。府。大。士。の。怨。散。せ。め。
 為。穢。を。辞。し。奉。領。へ。退。去。仕。和。五。の。美。を。斗。少。大。祈。の。面。大。勢。由。一。
 若。び。奉。領。は。在。く。も。不。定。の。狼。膽。め。ん。く。と。昼。夜。を。安。ん。ぶ。る。と。結
 して。恐怖。か。る。ゆ。づ。れ。が。某。亦。述。森。食。を。何。せ。だ。偏。は。系。時。前。の。權。威。は

依^る諸^る人^の憎^を受^しると初^ての牙[。]主^從後^悔至^極任^せめ^り自^今以^來
 一^の牙^の案^堵仕^せる^一族^郎亦^評定^しる^及ゆ[。]わ^る人^の意^恨を散^らせ^る術[。]
 其^之如[。]三^郎兵^衛尉^宗茂^熟思^仕る[。]亦^宗時^先君^の作[。]報^復を^受く[。]自^行と[。]
 稜^威強^く我^悽の^哀動^のつ^まど^も今^羽林^の作^時と^多り[。]何^の次^を以^て
 非^礼を^犯ん^ば然^る連^書の^祈ハ^皆从^前の^意恨^多り[。]先^君薨^去間^中
 多[。]如^新の^故君^の薨^逝を^哀び^しり[。]亦^為と^ん。^{され}ば^若牙^上
 替^への^祈と^めは^羽林^宗時^又つ^ねに^憐れ^られ^り。^亦人^よえ^替は^せめ^られ^ん
 せ^し。^後我^非宗^時作^答を^義然^らし^治定^せり[。]君^子ハ^旧惡^を咎^めば^往
 今^時往^る次^額今^次字^のの^意。^亦宗^臣憎^をの^よめ^るも^亦ば^往
 今^時往^る用^ひら^る。^梶原^一家^の軍^仁恩^を思^ひな^美の^實を^受く[。]
 於^てハ^國家^の作^為も^亦と^ん。^{され}ば^け美^一族^{より}。^ハ德^と遠^き由^り。[。]

旧^好の^中を^終と^被蒙^せん[。]と^んん[。]或^ハ止^まを^忍び^連書^又加^り。^又も^元の[。]
 手^前を^取ね^り取^次す[。]と^も殘^念又^扱ひ^を執^ん方^をた^しり[。]宗^時在[。]
 京^の朝^ハ其^意を^察し[。]公^卿方^を執^を思^うら^る。^仙洞^へ奏^問。^は皇^の敎[。]
 其^意を^作る[。]謀^臣の^怨憤^を宥^めら^して[。]其^實を^勅定^の重^ため[。]和[。]
 平^綱ひ^やま^る。^亦宗^時を^信じ[。]君^恩を^重く[。]諸^臣と^水魚^の交[。]
 大^幸け^上有[。]と^んと[。]密^に某^を上^京せ^らる[。]と[。]色^皆自[。]
 己^の家^名一^の牙^の案^堵を^希ふ[。]全^く別^の子^細也[。]け^りも^各授^へる[。]
 宗^時今^を始^終中^上也[。]ハ^何年^ハ兩^所折^レ仁^情の^中細^を添^らと^{主人}乃[。]
 宗^時命^安堵^仕レ^後偏^又歎^{する}。^一言^の洋^るく[。]兵^を振^らせ^らる[。]言^諸備[。]
 今^も義^理又^通。^とも^宗宗^宗之^言。^レ惟^美定^綱を^始在^合諸^士由^番
 場^が説^法を^大感^と。^私諸^多。^佐木^定細^番場^又向^ひ汝^が中[。]

皇朝存統紀卷之二

五十九

左も亦ぞ。代ども強金くう。巾沙法由る。その方が恐びよる。私の頼。奏
の類を副人。と忍ひ申。汝が上京。此方より。改申。上ハ強金。新へ
下知を受。死が。被忠を感。ざる友。何れ申。知ざる。か。あ。く。さ。並。づ。ま
る。が。下。向。の。弟。ハ。内。々。告。知。と。ぞ。と。あ。れ。が。忠。を。熊。と。然。候。の。祥。を
ま。其。か。寸。忠。を。忍。び。仁。惠。の。作者。が。見。合。せ。下。向。の。初。ハ。必。ぞ
巾。届。仕。んと。候。び。い。ま。暇。や。て。主。帰。り。なり。

星月夜頭晦録初編卷之二畢

